

(42)

集団指導の位置

お茶の水女子大学

宮坂 哲文

1. 集団指導 *group guidance* なる用語は今日かなりひろく使われているにも拘らず、その概念はかならずしも明瞭でなく、用語法も一定していない。集団指導とはいったいかなるものであり、現代の学校教育の方法体系においていかなる位置を占めるものであるか。
2. まず、集団指導についての現行定義を吟味するために、アダムスとベネット、アーサー、ジョーンズ、ホップック、デヴィスとノリス、ウォーターズ等の諸家の試みている概念規定をとりあげて分析し、それらに共通する諸観念を抽出する。
3. つぎに、集団指導なる語で指されている具体的な集団ないし集団場面の種類を R. D. フローと A. フロー、A. ジョーンズ、アダムスとベネット、ウォーターズ、リード等の試みている類別に従いながら整理綜合し、現在集団指導の場合とみなされているものを三種の基本的類型に分類し、それぞれの特徴を明にする。
4. 以上により明にされた集団指導なるものが、現代学校の教育方法体系においてはたしていかなる位置を占めうるものたるかについての諸疑念に立つて、近代学校の基本性格への省察と、現代学校における指導の現実形態の批判的考察とに基づき、現代学校における集団指導の位置設定を試みる。
5. 集団指導なる概念は、集団場面での指導、又は集団を通しての指導を意味する点で、個別場面での指導を意味する個別指導と並んで指導なる概念に対する下位概念にすぎないが、しかし方法体系においては決して第二義的なものでなく、現代の学校状況のもとにおいてはすべての生徒のための指導がそれによって約束される唯一の手段であり、一斉教授形態が近代学校の教授方法の体系を成立せしめたと同様の理由で現代学校の指導方法の体系の基盤を形成するものであり、しかもまた同様の理由で個別的方法によって媒介されるべきものである。